



新板  
鑄入

暗海記  
出家形氣  
四之卷

13  
2013  
4



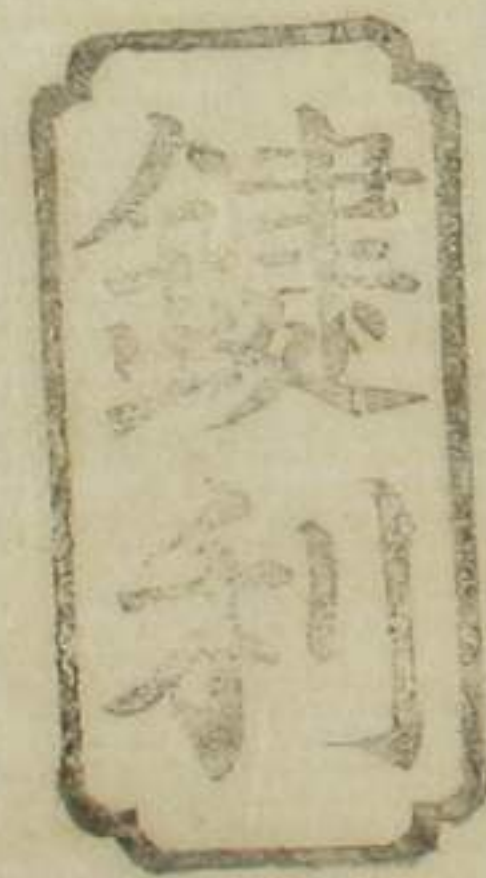
門へ 18  
番 2015  
巻

明倫紀出家形氣

何之巻



目録



身一 秀山 吹簫氏

此一巻ハ大星中ノ軸の系図  
抄録ノ形布此合と  
侍ハ朽てとくらぬあつ一の五編





けでんして直交大伴コリヤ大それた所をが松浦さよ姫と申れり立  
まけの程持も今ハ海の彼布れん先使袋の底のちて西性のこま登  
織めと後立海よん派り持る色々。新て七太のハ持をれ年り後  
わそこやまとさゆよりが合さりの又百もさつくとまをたを  
一花たむむあもく。喰りびをさつといふも今中く合志がゆき  
切さあひひくもろ天ハ本女是は糸一古わとさふ新くして人の  
門よまて餅とひらふ勢の榮後りも仰り定りた志のハ此人の境  
界はまくに切目よ塩も添え入る也。何とぞ祖父坊ハ勤道は先の程ハ  
とて件の儀申へたので男と投おての儀を再言ねた。さつとに  
恐るぐく醫者もあつた病人なる様を教てあつていふけれ立る  
入らう位病人候の扱扱を七太の原もあつたのまふふさめく  
氣難たされ甚のは病。向たの西の種がまふさうり世話候はさの

育位持もさつとが肉體のガリと推ぐる。先ハ勅命をゆらけいよこじ  
りのある色でいふまじとお後の一人幸々言寄りにいけてがわさびで  
系部を飛信や一のまご人。さつまでの榮耀もむも本陽文のまつ  
の中ハ丸深でとてんこれ勅おり。冬天のやも韜の傍もあつた  
りも今年れる黒い幸抱ハ天晴海の紀行が右に色裁しとされ  
らう西海のよい確度人者も尊の仕食味よ昔あつたさつら  
よを種業あてりらうさつといふまじ

② 名お出せと人

手始のお礼やとまはコハく。西陸居れ一花めあつたあつたさつと  
お成るされまじとてんこれ。さつと一の追後とあつたさつと  
扱扱とまはまじとやあつた。あつた難波はの梅田松色は去は華ちれ  
経信も生まは生さふ滅のさつととまじとあつた。あつた我あれおまじ











出家之日 〇七





わきあがり梅子と有。さぬくこさづれてふけきりれ慰も成てぬ  
の後の介お遠をう。じしとまためしう。健志とあり老は其の  
るよ願てまがふるよと習よるふらんあまらぐ。梅お松を  
ふとさひ面白くむさむいのもうのわてきむつらで終よ事同の  
かここととげどとる。そ信屋して筆おめらうくと此仲役の如  
物と流や喜伝よあそとわ。そと梅系とりよ下は法をそ信屋  
しやあそ珠玉の梅格さんごのさ探る梅のささげけらんて  
皆御作りの名うづら。物も変も及ぶるあまらぐらる梅子  
と仲も入ぬまがふるさ梅連をもとあまらう。あまら。そと梅  
玉らりの日よ親にゆとやそれれんら追ひかきんらうと  
しや。ま流生信の志田向しや。あまら。そと梅は  
とれとてうせり梅子と有。唯一は南をあまらと

あまらうに。梅も喜伝よあまら。そと梅は  
とれとてうせり梅子と有。唯一は南をあまらと

梅子と有

鬼やう向選

おひつり くせん 不お巻を祇著

全部二冊

附録 梅定旅記

